

紹介

● 世界史論講

坂口 昂著

本書は故文學博士坂口昂氏の知友門下の諸氏が相寄つて故人が生前史學に關する諸雜誌等に發表されし論文隨筆等を整理して上梓したものである。著者は人も知る我國西洋史學の泰斗であり、ルドキヒ、リースを通じてランケを理解し、更に自らの研鑽によつてランケの世界史觀の本質を把握して、先きに「世界に於ける希臘文明の潮流」「概觀世界史潮」「ルネッサンス史概説」を著述し、これ等の歴史著作を通じて、ランケ史學の眞髓を示した人である。本書七六三頁の大冊一卷は、その含む所の諸論文、隨筆盡く著者の卓越せる世界史觀の發現せるものなるを示して居る。例へば、錯綜せる日本文化の發展を理解するに當つて、明治以前と以後とによつて國民的日本と世界的日本とに區別し、之を希臘文化を表現する二つの熟語ヘレネドムとヘレニズムとに倣ひ、「前者はジャ

パンドム Japandom であり、後者はジャバニズム Japannism である」とよく一語を以て論斷する所、此の著者にして初めて可能であらう。又プラトニー、アリストテレス等の政治理想が一個の帝國主義となる傾向あるを説き、「かやうのことが果して化成するや否やは、主として歴史の現實生活に於て、天才偉人が現實に出現するや否やに繫つて居る」と主張して、その世界文化の發展に對する理解の仕方的一端を示して居る。本書は隨所にかくの如き著者の史觀を閃かすが故に、その史實の展開と相俟つて、單に西洋史學界に對してのみならず、歴史觀に就いては混沌たる史學界一般に寄與する所大なるものがあらう。

内容は著者が今上陛下の攝政宮殿下に在せし時、御進講申上げた「進講録草案」——希臘の政治の實際と理想、アレクザンドル大王の文化的使命の二篇——を卷頭に載せ、古代に關するものとして他に、最古の個人エヘン・アートン、テミストクレスの偉業、希臘の波斯軍掃蕩戰、アレクザンドル大王の東征、アレクザンドリヤの黄

金時代、君主崇拜、近世史に關しては、獨逸帝國思想の由來、エルザス・ロートリンゲンの現在及び將來、エルザス・ロートリンゲン問題、エルザス・ロートリンゲン問題の補遺、英國の民族及び國民、世畏史より見たる太平洋問題マルチニ氏韃靼戰爭記につきて、在支那耶穌會に關する研究の片々、近代史學の成立に就いては、古代史研究の發展につきて、宗教史の研究と史學、ローマンチック時代に於ける一青年史家の生立、ランケの史學と彼の體驗したる革命との關係、フイテとランケ、町人學者、ランブレヒトを憶ふ、ドイツ史學の二大百年記念、時代の趨勢と史家の任務、史料解放の義、等の雄篇を載せ、尙隨想録として十一篇を含む。

著者逝去されてより既に滿三年餘を経たりと云ふも、本書の公刊によつて、著者の我國史學界への貢獻は益々大を加へ、その不朽の生命は一層光輝あるものとなるであらう。(定價五圓貳拾錢、岩波書店發行)

● 希臘史

村川堅固著

美しい西洋文化の流は、多様な東方的文化を吸収して

自己自らの文化形態を創造し、眞の意味に於て現代の世界文化の源泉となつた希臘文化に發する。現代文化をより深く理解し、新文化を創造せんとする者は、先ず希臘文化を把握しなければならぬ。本書の出現は、この意味に於て、我國一般文化に貢獻するもの多大であらう、著者もその序の劈頭に「東西の文化を融合して新文化を創造し、以て世界文化の進歩に寄與せんとの大抱負をもつ日本國民は、一面に於て東洋文化の精華を闡明して、之が發揚を圖ると共に、他面西洋文化の眞髓を把握し、適宜之を取捨するの用意がなくてはならぬ」と言つてゐる。以て著者の本書上梓の目的を察すべきであらう。本書はギリシャ史の太古時代より紀元前二世紀頃迄のヘレニズム時代に至る殆んど希臘文化の全發展を叙述して居る。而も、如何に些細な事實とするも、いやしくもそれが希臘文化に關與する限りは之を忽諸に附せず、三百頁餘の小冊子の中に希臘文化の全幅を展開せるは驚歎すべしといふも過褒ではないであらう。併し本書が比較的事實を網羅することを先きにして、それ等の事實の有する意味

價値等の究明を後にせるの感あるは、前記著者の目的に添はぬが如く考へられる。蓋し書肆の需要による限られたる紙數の然らしめたるか。(三省堂發行、定價壹圓八拾錢)

●佛蘭西史

高市慶雄著

混沌たるゲルマン民族大移動の渦中にあつて先づ國家生活の規範を確立したフランス、ローマ風・ゲルマン風新社會の培養基礎となつたシャル大帝の統一國家の中軸となつたフランス、中世の最大社會運動たる十字軍のリーダーとなつたフランス、近代的統一國家構成の魁となつたフランス、近世に於て外交の指導的地位に立つたフランス、——眞にフランスこそ西洋史上何れの國にもまして波瀾重疊、變化曲折の歴史を體驗して來た國である。著者はこの波瀾を極めたフランスの歴史を、その古代住民の風貌の叙述に筆を起し、十九世のフランス文化を描寫して擱筆して居る。二一四頁の紙數を以て、一筋の流の如く統一ある佛蘭西史を展開して居る。本書が卷末に佛蘭西史年表、佛蘭西史參考文獻、佛蘭西王室系譜、

佛蘭西史地名稱呼對照表、索引を附して居ることは本書の一特色であつて、佛蘭西史研究に便する所尠しとしない。(三省堂發行、定價壹圓五拾錢)(以上井上)

彙報

●本會評議員

三浦周行博士訃

本會評議員、京都帝國大學名譽教授、從三位勳二等、文學博士三浦周行氏は、昭和六年九月六日午後五時五十分、病革まり溘焉として薨去せらる。哀痛云ふところを知らず。博士は明治四年六月四日を以て島根縣八束郡竹矢村大字竹矢五十一番地に生まる。幼にして穎悟、その性常人に似ず、祭禮等に父母より賜ふ金を割きて軍談の書を購入ひ耽讀し、その書積んで等身に及べりといふ。後年博士の旺盛なる讀書、蒐集性は既に此時に崩せるなり。年長じて島根縣尋常中學校、私立東京英和學校を経て帝國大學文科大學選科に學び、明治廿六年六月その業